

令和 2 年 度

学 校 法 人 の 概 要

令和 2 年 4 月 1 日 から
令和 3 年 3 月 3 1 日 まで

学校法人 青森田中学園

—目 次—

1. 学校法人の概要	
(1) 建学の理念・精神	1
(2) 沿革	1
(3) 設置学校等	5
(4) 役員及び教職員に関する情報	6
(5) 各学校等の学生数に関する情報	7
2. 事業の概要	
(1) 当該年度の主な事業の概要	8
(2) 教育研究の概要	2 2
①教育研究上の基準となる組織に関する情報	2 2
②教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報	2 3
③学生に関する情報	3 0
④教育課程に関する情報	3 6
⑤学修の成果に関する評価及び卒業の認定に当たっての基準に に関する情報	3 8
⑥学習環境に関する情報	3 9
⑦学生納付金に関する情報	4 1
⑧学生支援と奨学金に関する情報	4 2
(3) 管理運営の概要	4 5
(4) 特徴ある取り組みの概要	4 6
3. 財務の概要	
(1) 財産目録	4 9
(2) 貸借対照表	5 0
(3) 借入金明細書	5 2
(4) 資金収支計算書	5 3
(5) 資金収支内訳表	5 4
(6) 活動区分資金収支計算書	5 6
(7) 事業活動収支計算書	5 7
(8) 事業活動収支内訳表	5 8
(9) 令和元年度決算の概要	5 9

1. 学校法人の概要

(1) 建学の理念・精神

本学園は、昭和21（1946）年に、創立者久保 豊前理事長と久保ちゑ前学園長が、「青森珠算簿記学院」と「青森裁縫学院」を設立したことに遡る。第二次世界大戦後の混乱期であり、青森市も焼け野原で、住む家もない中で、どのように家族を養い、未来に希望を持って生きていくかに国民が憂慮した時代である。そのような中で、まずは手に職を付けて生活の自立をはかること、貧しいながらも豊かな心を育んでいくことを教育の理念に掲げ、「愛あれ、知恵あれ、真実あれ」を建学の精神とし、慈愛と英知に満ちた絶対的な真理をめざし、子どもたちには、他者を尊重する心を、教職員には教育愛にあふれる学園づくりを求め、学園全体の建学の精神として継承されています。

(2) 沿革

昭和21年6月	青森珠算簿記学院（現 青森中央経理専門学校）並びに青森裁縫学院（現 青森中央文化専門学校）創立
昭和31年3月	学校法人田中学園設置認可（青森県知事認可）
昭和45年1月	学校法人青森田中学園に組織変更（文部大臣認可）
昭和45年4月	青森中央女子短期大学家政学科（現 青森中央短期大学食物栄養学科）設置
昭和46年4月	青森中央女子短期大学附属第一幼稚園（現 青森中央短期大学附属第一幼稚園）設置
昭和49年4月	青森中央女子短期大学幼児教育学科（現 青森中央短期大学幼児保育学科）設置
昭和51年1月	専修学校制度発足、青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校認可
昭和51年3月	自適館（学生寮）竣工
昭和55年4月	青森中央短期大学附属第二幼稚園設置
昭和56年4月	青森中央短期大学附属第三幼稚園設置
昭和59年8月	こぶし会館（学生寮）竣工
昭和63年4月	青森中央短期大学経営情報学科設置
平成元年4月	青森中央短期大学専攻科福祉専攻設置
平成8年3月	浅虫校地の拡充・野外教育活動用地取得（108,941 m ² ）
平成10年4月	青森中央学院大学経営法学部経営法学科設置（青森中央短期大学経営情報学科学生募集停止） 本部棟・7号館（図書館）・プール棟・国際交流会館竣工 青森中央学院大学と大連外国語学院（中国）との間で国際交流協定を締結
平成14年10月	学術交流会館竣工 野球場・陸上競技場・サッカー場・テニスコート完成
平成15年4月	ボクシングジム完成
平成16年1月	カセサート大学（タイ王国）との間で国際交流協定を締結
平成16年4月	青森中央学院大学大学院地域マネジメント研究科地域マネジメント専攻設置 青森中央学院大学地域マネジメント研究所設置 柔道場完成
平成18年4月	青森中央短期大学看護学科設置

7号館（看護棟）竣工。図書館増設

平成19年3月	青森中央学院大学と国立貿易大学（ベトナム）との間で学術交流協定を締結
平成20年2月	青森中央学院大学と十和田市（青森県）が包括連携協定を締結
平成20年4月	青森中央学院大学と吉林化工学院（中国）との間で学術交流協定を締結
平成20年6月	青森中央学院大学開学10周年記念総合運動場完成
平成20年9月	青森地域大学間連携（青森市内7大学）に関する協定を締結
平成21年3月	青森中央短期大学平成20年度第三者認証評価の結果適格と認定（財団法人短期大学基準協会）
平成21年5月	ハンドボールコート完成
平成22年3月	青森中央学院大学平成21年度大学機関別認証評価の結果大学評価基準に適合と認定（財団法人日本高等教育評価機構）
平成22年4月	青森中央学院大学と国立貿易大学（ベトナム）との間で共同教育プログラム実施協定を締結
平成22年8月	青森中央学院大学と僑光科技大学（台湾）との間で学術交流協定を締結
平成22年10月	青森中央短期大学とチュラロンコン大学看護学部（タイ王国）及び上海大学国際交流学院（中国）との間で、学術交流協定を締結
平成22年10月	青森中央学院大学と上海大学国際交流学院（中国）との間で学術交流協定を締結
平成22年12月	青森中央学院大学と、運城学院（中国）との間で共同プログラム協定を締結
平成23年2月	青森中央学院大学と泰日工業大学（タイ王国）との間で学術交流協定を締結
平成24年4月	青森中央短期大学附属第一幼稚園、附属第三幼稚園が認定こども園に認定
平成25年5月	青森中央学院大学とチューヴァンアン・ハイスクール（ベトナム）が連携協定を締結
平成25年5月	青森中央学院大学と南台科技大学（台湾）、南開科技大学（台湾）が交流に関する協定を締結
平成25年10月	青森中央短期大学附属第二幼稚園が認定こども園に認定
平成25年11月	青森中央学院大学とむつ市（青森県）が包括連携協定を締結
平成26年1月	東北師範大学人文学院（中国）と交流に関する協定を締結
平成26年2月	青森中央学院大学が青森県立中央高等学校と高大連携に関する協定を締結
平成26年3月	青森中央学院大学が青森県立西高等学校と高大連携プログラムに係る協定を締結
平成26年3月	青森中央学院大学・青森中央短期大学と青森市横内町内会が連携協力に関する協定を締結
平成26年4月	青森中央学院大学看護学部看護学科設置（青森中央短期大学看護学科学生募集停止）
	7号館（看護棟）増築、2号館竣工
平成26年7月	青森中央学院大学看護学部とタイ王国チュラロンコン大学看護学部が学術交流協定を締結
	青森中央学院大学と呉鳳科技大学（台湾）が学生交流・学術交流に関する協定を締結

平成 26 年 7 月	青森中央学院大学と㈱みちのく銀行が海外ビジネス支援に関する連携協定を締結
平成 26 年 7 月	青森田中学園と㈱青森銀行が地域活性化連携協力協定を締結
平成 27 年 1 月	青森市横内地区まちづくり協議会発足 青森中央学院大学・青森中央短期大学加入
平成 27 年 3 月	青森田中学園と青森市が包括連携協定を締結
平成 27 年 3 月	青森中央学院大学と青森県中小企業同友会が連携に関する協定を締結
平成 27 年 9 月	青森田中学園と特定非営利活動法人青森県消費者協会が連携に関する協定を締結
平成 27 年 11 月	青森中央学院大学・青森中央短期大学が弘前大学、青森県、青森市、弘前市、八戸市、むつ市、青森県立保健大学、東北女子大学、八戸工業大学、弘前学院大学、八戸学院大学、弘前医療福祉大学、八戸工業高専と「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に係る連携・協力に関する協定を締結（令和 2 年 3 月まで）
平成 28 年 2 月	青森中央文化専門学校、青森中央経理専門学校の専門課程が「職業実践専門課程」に認定
平成 28 年 2 月	青森中央学院大学と東北町が包括連携協定を締結
平成 28 年 3 月	青森中央短期大学平成 27 年度第三者評価の結果「適格」と認定（一般財団法人短期大学協会）
平成 28 年 3 月	青森中央学院大学と久留米大学が包括連携協定を締結
平成 28 年 6 月	青森中央学院大学と国立台北科技大学（台湾）が学生交流・学術交流に関する協定を締結
平成 28 年 10 月	学園創立 70 周年記念式典・祝賀会举行
平成 29 年 3 月	青森中央学院大学・青森中央短期大学が青森明の星短期大学と大学間包括連携協定を締結
平成 29 年 3 月	青森中央学院大学平成 28 年度大学機関別認証評価の結果大学評価基準に適合と認定（公益財団法人日本高等教育評価機構）
平成 29 年 5 月	サッカー場（人工芝）竣工
平成 29 年 10 月	青森中央短期大学が青森商工会議所と連携協定を締結
平成 29 年 10 月	青森中央学院大学・青森中央短期大学が青森市内大学・短期大学、青森市及び青森商工会議所と青森市産官学連携プラットフォームを設立
平成 29 年 11 月	青森中央学院大学・青森中央短期大学が青い森信用金庫と連携協定を締結
平成 30 年 1 月	青森中央学院大学別科助産専攻指定（入学定員 5 人）
平成 30 年 2 月	青森中央学院大学と釜山外国語大学校（韓国）が学生交流・学術交流に関する協定を締結
平成 30 年 3 月	第 2 体育館、屋内練習場（人工芝）竣工
平成 30 年 5 月	青森田中学園と特定非営利活動法人青森県防災士会が包括連携協定を締結
平成 30 年 11 月	青森中央学院大学と北京第二外国語学院（中国）が学生交流・学術交流に関する協定を締結
平成 30 年 12 月	青森中央学院大学経営法学部経営法学科（入学定員 150 人）の入学定員を 165

人に変更（文部科学大臣）

- | | |
|----------|--|
| 平成30年12月 | 青森中央学院大学とハノイ国家大学外国語大学（ベトナム）が学生交流・学術交流に関する協定を締結 |
| 平成31年2月 | 青森中央学院大学と忠清大学校（韓国）が学生交流・学術交流に関する協定を締結 |
| 平成31年3月 | 青森中央短期大学看護学科の廃止（理事会） |
| 令和元年5月 | 青森中央学院大学と吉林外国語大学（中国）が学生交流・学術交流に関する協定を締結 |
| 令和元年8月 | 青森中央学院大学と青森県立青森商業高等学校が、高大連携に関する協定を締結 |
| 令和2年3月 | 青森中央短期大学と社会福祉法人中央福祉会が、教育・研究・福祉サービスに関する協定を締結 |

(3) 設置学校等

学校法人青森田中学園

所在地 青森市大字横内字神田 1 2 番 1

理事長 石田憲久

青森中央学院大学

所在地 青森市大字横内字神田 1 2 番地

学長 佐藤 敬

青森中央学院大学大学院

研究科長 内山 清

青森中央学院大学地域マネジメント研究所

所長 小松原 聡

青森中央短期大学

所在地 青森市大字横内字神田 1 2 番地

学長 久保 薫

認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園

所在地 青森市大字野尻字今田 1 0 8 番地

園長 坪谷輝子

認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園

所在地 青森市大字三内字丸山 1 6 番地

園長 中田尋美

認定こども園青森中央短期大学附属第三幼稚園

所在地 青森市大字原別字袖崎 9 番地

園長 岩葉悦子

青森中央文化専門学校

所在地 青森市大字横内字神田 1 2 番 1

校長 久保 薫

青森中央経理専門学校

所在地 青森市大字横内字神田 1 2 番 1

校長 石田憲久

(4) 役員及び教職員に関する情報

1) 役員等の状況

令和3年5月28日現在

役員定数	職 名	氏 名
理事数 定数 8～10 現員 9	理事長	石 田 憲 久
	理 事	佐 藤 敬
	理 事	石 田 薫
	理 事	和 田 勉
	理 事	榊 原 喜 廣
	理 事	内 山 清
	理 事	楠 美 夕 ヒ
	理 事	山 道 雄 也
監事数 定数 2 現員 2	監 事	花 田 勝 美
	監 事	佐々木 信 一 平 出 道 雄
評議員数 定数 17～21 現員 19	評議員	桜 庭 肇
	評議員	大 沢 陽 子
	評議員	石 田 壮 平
	評議員	坪 谷 輝 子
	評議員	高 橋 晴 美
	評議員	グエン ギア チ
	評議員	一 戸 とも子
	評議員	珍 田 良 作
	評議員	町 田 光 司
	評議員	石 田 恒 久 村 田 秀 俊

2) 教職員に関する事項

令和3年5月1日現在 (単位：人)

区分	青森中央学院 大学	青森中央学院 大学 地域マネジメント 研究所	青森中央短期 大学	認 定 こ ど も 園 青 森 中 央 短 期 大 学 附 属 第 一 幼 稚 園	認 定 こ ど も 園 青 森 中 央 短 期 大 学 附 属 第 二 幼 稚 園	認 定 こ ど も 園 青 森 中 央 短 期 大 学 附 属 第 三 幼 稚 園
専任教員	6 5	—	3 0	1 0	1 0	1 0
非常勤教員	1 1 0	—	4 4	—	—	—
専任職員	5 7	1	2 1	4	4	5

区分	青森中央文化 専門学校	青森中央経理 専門学校
専任教員	3	3
非常勤教員	6	5
専任職員	—	—

※専任教員と非常勤教員の比率

青森中央学院大学 1 : 1.69

青森中央短期大学 1 : 1.46

(5) 各学校等の学生数に関する情報

令和3年5月1日現在 (単位:人)

学部・研究科名		入学定員数	収容定員数	現員数	備考
青森中央学院大学	経営法学部	165	670	730	教員一人当たり学生数 22.1
	看護学部	80	320	351	教員一人当たり学生数 10.9
	別科助産専攻	5	5	5	教員一人当たり学生数 1.7
	地域マネジメント研究科	10	20	11	教員一人当たり学生数 0.8
青森中央短期大学	食物栄養学科	60	120	104	教員一人当たり学生数 6.9
	幼児保育学科	100	200	111	教員一人当たり学生数 7.4
	専攻科福祉専攻	25	25	5	教員一人当たり学生数 1.7
認定こども園 青森中央短期大学 附属第一幼稚園			199	141	
認定こども園 青森中央短期大学 附属第二幼稚園			199	128	
認定こども園 青森中央短期大学 附属第三幼稚園			159	102	
青森中央文化専門学校	職業実践専門課程 (服飾課程)	20	40	19	
青森中央経理専門学校	職業実践専門課程 (商業実務課程)	20	40	35	

2. 事業の概要

(1) 令和2年度の主な事業の概要

2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）を踏まえた本学園の対応施策

1. 各設置校の中長期計画の整合性・教職員の共通認識、組織的な対応
 - ・学園中期経営計画について実行・次期計画を策定
 - ・学院大中期計画について継続的に実行
 - ・短大中期計画（こぶしの花プラン）を実行及び次期計画策定着手
 - ・学園重点事業について概ね実施
2. 現計画の方向転換・調整および次期計画策定を目的とした社会情勢等に関する資料・指標の収集・分析を実施
3. チェックシート・PDCAシート等の活用により、PDCAサイクルの仕組み作りを推進し、自己点検評価・内部質保証システムを確立
4. 高等教育の無償化（授業料等減免・給付型奨学金）の制度適応校として認証を受ける
5. 専門学校将来構想の策定に着手
6. 認定こども園の将来構想について検討
7. キャンパスグランドデザインの策定

安定した財務と持続可能な経営

1. 経費削減方法について具体策を考え、具体的な数値目標を設定
2. 「選択と集中」を重視した投資計画の策定・実行
3. IRを活用した経営判断・意思決定及び専門スタッフの育成
4. 私立学校法の改正に伴うコンプライアンスの遵守・監査機能
5. 寄附事業の積極的な展開を図る（寄附金（短大50周年事業等）・寄附講座・現物寄附等）
6. バランスのとれた事業活動収支の維持及び安定した財務状況を確立
7. アウトソーシングの活用・IT環境の整備
 - ・昨年度更新・導入した基幹システム・Office 365を活用し、事務処理の効率化を実施
 - ・自動証明書発行機導入

入学定員を確実に確保するための戦略的入試広報活動の展開

1. 新入試制度の確定とステークホルダーへの効果的な情報提供
2. 入試広報・学園広報・地域連携・高大連携等の連携による効果的な入試広報体制を確立及び各設置校の入学定員の確保
 - ・HP・SNSによる情報発信、Web出願、デジタルオープンキャンパス、保護者向けパンフレット、実業系高校・総合学科との高大連携と入学者枠・地域枠の検討、効果的な教員の役割の検討
3. 人生100年時代に向けた教育のあり方の検討
 - ・社会人教育プログラム（全設置校共通課題、リカレント教育、社会人の学び直し等）社の継続的な実施のため会人教育プロジェクトを組織
4. 長期高度人材育成コースの受け入れ（栄養士課程・保育士課程受入れ）

教育改革・教学マネジメントの取り組み及び学生支援の充実

1. 教育課程の見直しと新教育課程の履行

- ・全学：AI、数理、データサイエンス教育、設置校・学部横断教育（文理横断教育）、設置校共通教養科目（リベラルアーツ教育）、ICT を活用した教育の検討（基幹教育センターを組織化し対応）
- ・経営法学部：新教育課程の共通理解と実施 グローバル人材養成プログラムの推進（正課の科目としてグローバル人材養成プログラムを位置づけた）
- ・看護学部：新教育課程の共通理解と実施 保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正に伴うカリキュラムの改正に向けた準備
- ・別科助産専攻：教育課程の実行・評価
- ・大学院：開講科目の充実を図った（グローバルコミュニケーション等）
- ・短期大学：
 - ・教育目的達成のため体系的で組織的な教育を展開
 - ・カリキュラムツリー・カリキュラムマップによるシラバス作成
 - ・入学前教育～初年次教育～教育課程～入学後学習支援～卒業時学外試験～卒業教育
 - ・アセスメントポリシー、アセスメントプランの実施
 - ・特色化（学びの青森化、食育、課外活動、海外研修など）
- ・専門学校：外部委員による「教育課程編成委員会」「学校関係者評価委員会」の評価を反映させた
- ・認定こども園：「認定こども園の使命＋附属ならではの特色」を追求し、カリキュラムに反映させた。
- ・ビオトープを活用した環境教育（第一幼稚園活用）、英語教育（ネイティブ教員を通常保育に活用）の抜本的な見直しをした。
- ・教員の教育力・保育力の向上を図る研修会等の開催

2. 学習環境の整備・充実

- ・計画的な施設・設備の改修・維持の実施
- ・3号館・プール棟の改修工事を実施
- ・ICT 環境の整備

演習室 PC 入れ替え、e-Leaning の導入について検討した

3. 多様な学習経験を持つ学生に対して学習支援を充実させた

- ・入学前学習、初年次教育、リメディアル教育の強化

4. 学生支援の多様化

- ・課外活動、スポーツ学生、障害を持つ学生、退学率の改善、合理的配慮、学友会の活性化等

5. 高い就職率、学生の希望する就職実績を維持するとともに、本学の強みを生かした就職支援に力を入れた。

- ・キーワード：公務員、グローバル人材、インキュベーション、防災教育（学生団体「DEST」再始動・防災士の資格取得・自治体等との連携による防災活動）、インターンシップ（単位化）、地域貢献、地元定着
- ・卒業生のUターン支援、転職者支援

6. 教学マネジメント指針への対応

- ・組織的・連携した取り組み・・・・・・教育の質保証

学院大学：教学マネジメント会議を設置

- ・学習成果の可視化・情報公表

経営法：PROG の実施、看護：GPS アカデミック・実習到達度ルーブリック評価表

短大：様式の決定、ディプロマ・サプリメント

1※ 国家試験及び各種資格・免許の確実な取得

- ・看護師・保健師・助産師等の国家試験対策講座、公務員試験対策講座、管理栄養士国家試験対策講座等の開催

2※ 専門学校主催の資格試験対策講座（簿記・FP・IT）の活用

3※ 教職員の教育力向上を図る（FD・SD 活動）

4. 本学の IT 教育、外国語教育の見直し

- ・多様な学習経験、基礎学力を有する学生への効果的な IT、外国語教育実施（グローバル人材養成プログラム）

5. エンロールマネジメントの検討開始

6. SDGs を通じて学生の主体性、責任感を育む

研究活動の推進

1. 教職員に対して科研費を始めとする外部資金提供先を周知するとともに獲得のための戦略を構築及び外部資金獲得の支援の実施
2. 特色ある研究の推進・発信によるブランド化
 - ・短大：ヘルスコミュニケーションを用いた食育活動の展開事業を実施
3. 学部・学科・分野を超えた共同研究の推進
4. 研究費の配分方法について検討
5. 研究不正防止を徹底するため研究不正防止研修を実施
6. 研究活動を推進し、研究紀要の投稿数の増加を達成

本学園ならではの地域貢献の確立

1. 地域連携センターのこれまでの実施事業を見直し、重点取組事業を選別し、確実に成果をあげた
2. COC+を引き継ぐ諸事業の展開
 - ・インターンシップの積極的な展開（本年度はオンラインで実施）及び単位化
 - ・スポーツツーリズム（サイクルツーリズム等）、ヘルスツーリズム（クアオルト等）の積極的な展開
 - ・起業・インキュベーションプログラムの検討及び積極的な推進をし、「社会デザイン」プログラムを実施
 - ・卒業生の地元定着率を高める 学院大：卸団地相談会 短大：園見学バスツアーの実施
3. 連携協定に基づく行政・他教育機関・経済団体との具体的な連携活動の推進・実施
 - ・改革総合支援事業タイプ3 プラットフォーム事業に採択される
 - ・連携している行政・経済団体との共同事業（青森市、むつ市、東北町、十和田市等）を実施
 - ・久留米大学との連携事業、他大学等との共同課程・共同開講の検討、首都圏大学との連携検討
 - ・高等学校（国内・国外）との連携事業として、新たに大湊高校と連携協定を締結
4. フレンドリーウィンドウの利用率の向上を確保し、拠点機能を高める
5. 地域連携事業への学生及び教職員の積極的な参加

6. 看護実践における臨床と教育の連携強化・看護師のキャリアアップ及び学び直しニーズへの対応を目的として新たに看護実践センターを開設
- ・ 県内初の特定行為研修の実施

グローバル化・国際貢献

- ・ 外国の大学（編入学・共同教育プログラム・大学院（ダブルディグリー）等）、高校との共同プログラムの充実を図った
本 年 度：大連外国語大学
- ・ 日本語教育の充実（e-Learning 等の検討）
- ・ 留学生の就職支援の充実
留学生対象（日本）企業説明会の実施により 2 名が就職支援特別枠で文科省学習奨励費受給
- ・ 国際交流新事業の検討及び実施

インバウンド対応

- ・ 県産品の輸出促進 黒石りんご 4t の輸出を実施
- ・ 幼児教育分野・介護分野等（ベトナムからの日本式幼児教育研修等）
- ・ 地域の外国人労働者受け入れに係る協力として企業アンケート実施

設置校連携によるシナジー効果の創出

- ・ コロナ禍の取り組みとして、Web によるオンデマンド型講演会開催、エデュケーションサイト開設
- ・ 専門学校による大学生向けの資格取得講座の開講

健康経営の取組み

- ・ 教職員が健康を維持し、能力を十分に発揮できるしくみ・環境作り

青森中央短期大学 50 周年（2020 年）記念事業

- ・ 記念事業準備委員会設置→記念事業実行委員会へ移行

②青森中央学院大学・大学院・研究所

・入学前・後サポートプログラムの実施

リメディアル教育の充実を図り、AO・推薦入学者を対象とした入学前学習プログラムを実施し、入学目的別に海外留学志向型、公務員志向型、教員志向型、地域リーダー志向型、大学院進学志向型の学習方法について指導した。また、入学後の各種プログラム、課外活動、留学生の活動紹介を行ったほか、学習支援センターを中心とした入学後の退学防止、相談機能、上位層のモチベーションの向上等、本学の取組みについて説明した。

・保護者向け教育懇談会の実施

令和2年10月17日（土）保護者対象の教育懇談会を実施し、大学全体の現状と展望を説明した後、学業成績、進路、学生生活の個別相談を行った。

・公務員試験対策講座の実施

正規の授業に加えて、地方公務員上級職および国家公務員（総合職・一般職）、警察官・消防官などをを目指す学生のために特別な講座を設け、市役所、町役場、県警、自衛隊等への合格者を輩出した。

・看護師国家試験対策講座の実施

正規の授業に加えて、在学生及び昨年度不合格者を対象として、学内・外の講師による国家試験対策講座を開設し、合格実績を高めている。また、WEBによる学習システムを導入し、看護師国家試験対策の支援を行った。

・キャリア教育の充実と就職実績

地域・企業と連携し、専門教育内容を実践的な場で活用する課題解決・参加型プログラム群として、トークサロン、キャリアアップ・ワークショップ、公開模擬面接、e コマース等キャリア教育の充実を図り、金融機関、公務員等への合格者を輩出し、結果として令和2年度の実質就職率は84.6%、今年度で4期生の卒業生を輩出した看護学部は97.5%となった。

・公開型授業の実施

「現代社会の諸相」「人間と教育」「暮らしと地域」を一般公開授業として実施し、本学教員だけでなく首長をはじめ、地域で活躍している様々な立場の方を講師として招き、学生と地域の方が共に学ぶことにより、地域の様々な課題解決に向けて考える機会を設けた。

・助成・委託事業等

公益財団法人青森学術文化振興財団からの助成研究、助成事業等を実施すると共に、青森県庁から、あおもりツーリズム創発塾事業等を受託し実施した。また、科研費他外部研究資金獲得のための教員研修会を実施した。

・グリーン・ツーリズム支援事業の実施

本学に在籍する外国人留学生や海外協定校のネットワークを活かした、海外から青森県内へのグリーン・ツーリズム受け入れ事業を青森県内の各機関と連携して「アジアからの観光客誘致推進協議会」を組織し、青森県（農林水産部構造政策課）海外からの教育旅行等誘致業務委託料を活用して実施した。

・教員免許状更新講習の実施

学部の特徴を活かした教員免許状更新講習（選択領域）を開催し、多様な教科担当者が受講した。（学校が抱える課題―郷土理解教育・危機管理の観点からの考察―、学校教育において有用な『法』に関する講義、学校教育の中で有用な経済活動と学校における組織マネジメント、学校教育におけるメンタルヘルス）

・サークル活動支援について

強化指定部である硬式野球部、サッカー部、ボウリング部、バスケットボール部、ボクシング部、柔道部、ハンドボール部を中心に東北地区大会で活躍するなど、活発な活動を行った。

また、文化サークルもアンサンブルサークルやアカペラサークル、ねぶた囃子方サークル、クアウオーキングを支えようサークル、学生献血推進サークルDOTS等が地域のイベント・行事等に積極的に参加し、様々な地域交流を行った。特に運動部の学生に対して、特別講座を実施し、学業とスポーツの両立ができるための支援や、普通救命講習や栄養についての講座を実施する等の各種の支援を行った。

・FD活動

FD委員会が中心となって実施した令和2年度の主なFD活動は、各学期末の授業最終回における授業評価アンケートの実施、授業評価アンケート自由記述欄への教員コメントの作成と公開、学期途中における授業評価アンケートの実施、学生FD委員による座談会の実施、外部講師によるFD研修会の開催などを行った。

・地域社会活動

青森市中心市街地に開設しているサテライトキャンパス「Friendly Window」では、市民セミナー、留学生による語学講座、てつがくカフェ、読書会等の取り組みを行った。地域の様々なボランティア活動に参加しているほか、大学が所在する横内地域の10の町内会と「横内地区まちづくり協議会」を立ち上げ、地域の諸団体と連携し、様々な活動を実施している。

・ガバナンス改革の実施と運営

＜大学経営会議の設置＞

・大学の組織及び運営管理等経営に関わる事項についての審議決定機関とする。

＜人事委員会の設置＞

・教員の採用・昇任等教員人事に関わる事項についての審議機関とする。

＜教育組織運営規則の制定＞

- ・大学の組織・職制・施設及びその運営等に関する規則を定める。

- ・ **大学機関別認証評価の受審**

公益財団法人日本高等教育評価機構による認証評価の結果、大学評価基準に適合と認定される。特に学生の受入れについて、入学前学習プログラムにおいて、入学後のリメディアル教育につなげている点について、評価を受ける。

③青森中央短期大学

・入学前・後サポートプログラムの実施

リメディアル教育の充実を図り、ＡＯ、推薦入学者を対象とした入学前サポートプログラムの実施、学習支援センターを中心として、学科や学生の志向にあわせた、未履修科目や特定の科目の学力が不足している学生に対して、リメディアル講座（アカデミックライティング、数学、化学、生物）を開設した。

・保護者向け教育懇談会の実施

令和２年７月１１日（土）保護者対象の教育懇談会を実施し、短期大学全体の現状と展望を説明した後、学業成績、進路、学生生活の個別相談を行った。

・就職先の確保と就職実績

学生の就職を支援する組織として、キャリア支援センター、キャリア支援委員会を設置して、前年度の就職状況や内定報告書を分析し、各学科のアドバイザーと連携をとりながら学生の就職支援を行ない、令和２年度の就職率は食物栄養学科 96.2%、幼児保育学科 89.4%となった。

・卒業生を対象としたキャリアアップ支援講座の実施

卒業生を対象にしたキャリア支援として、管理栄養士免許取得のための勉強会を開設した。

・FD活動

教学マネジメント委員会が中心となって実施した令和２年度の主なFD活動は、学内FD研修会の実施、学科内FD研修会の実施、「青森中央短期大学SD・FDだより」の発行、学期末の授業最終回における授業評価アンケートの実施等を行った。

・出前講座・食育講座の実施

地域の教育機関、福祉団体等へ無償で講師派遣を行い、出前講座・食育講座を継続的に実施しており、地域の様々な機関へ本学教職員を講師として派遣した。

・教員免許状更新講習の実施

学科の特色を活かした教員免許状更新講習（選択領域）を開催した。（『食物アレルギーの対応に向けて』、『幼児期における食育の実際』）

・学生発表会の実施

今年もアウガ５Fホールにおいて一般公開による幼児保育学科第４７期生による卒業記念講演を実施した。

・産官学連携事業等の促進

食物栄養学科は、青森県から、「あおもり食育サポーター事務局運營業務」を受託し、あおもり食育コンシェルジュを配置し、市民ボランティア「あおもり食育サポーター」

を活用した食育活動を継続的に行っているほか、青森県およびイトーヨーカドーと学生が協力して、青森県産品を使った「中短生発 県民にパワーを！青森を元気にする弁当」のメニュー開発を行い、青森県内のイトーヨーカドーで販売した。

幼児保育学科専攻科福祉専攻では、青森県福祉・介護人材確保緊急支援対策事業を受託し、福祉・介護の魅力を伝えるセミナーを開催した。

青森県の豊かな農林水産物や食文化など「あおもりの食」を中心とした知識を認定する検定として、青森県庁が平成 23 年度から 2 年間実施した「あおり食育検定」を、平成 26 年度から本学が事務局となり県内の他大学と連携し、「あおり食育検定公式テキスト」の作成や、検定試験の運営等を実施した。

・上級学校への進学・編入学支援

短期大学を卒業後、在学時に修得した資格を基に、さらに上位の資格を目指す学生が増えており、上級学校への進学、編入学を希望する学生に対して、情報提供、対策講座、進学者への奨学金を支給している。

・地域の特色をカリキュラム等に反映

シラバスに「学びの青森化」として平成 27 年度は 70%、平成 28 年度は 80%以上、現在は 90%以上反映している。

・中期計画「こぶしの花プラン 2016 年度～2020 年度」の実施

2016 年度～2020 年度の 5 年間で、6 つのスローガンのもと、中期計画を実行した。

④ 認定こども園青森中央短期大学附属第一・第二・第三幼稚園

附属幼稚園では、園の特徴を生かし、日々の保育に創意工夫を凝らしながら、「健康で心豊かな子ども」を目指して、次のような教育活動に取り組んだ。

・水遊び保育（５月～１１月初旬まで）

大学の構内にある温水プールを利用し、水に慣れ親しむ活動から、発達段階に応じて面かぶりや伏し浮きなど、初歩的な技術向上にまで高めた。

・英会話遊び保育（５月～３月）

外国人講師を招聘し、ゲームを通じて基本的な日常会話等に興味関心を持たせ、国際感覚に触れる機会とし、リトミックを取り入れ、コミュニケーション能力を高めた。

・公開保育

①保育参観日を１０月に実施し、保護者に指導内容を明確に示し、園児の成長の過程を公開すると共に、保護者の指導力の向上を図った。

②水遊び保育や英会話保育を公開し、施設や保育指導の状況等について保護者から信頼を得た。

・遠足（６月、９月）

遠足へ出かけ、海岸や高原などへ出かけて自然環境に触れながら思いっきり遊んだり、またリンゴ狩りなどの体験をして楽しんだ。

・運動会（６月、２月）

①６月の運動会は、広いグラウンドで家族の参加もあり、かけっこやお遊戯などを通じて体力作りの一環として実施した。

②２月は雪遊び運動会で、そり競争やゲーム、雪像づくりなど雪国ならではの楽しみを味わった。

・社会見学

水族館、プラネタリウム、駅舎、博物館、郵便局等の見学を通じて社会性や道徳性を学ぶ場となった。

・交流活動

近隣の小学校、保育園、高校生、大学生、三思園（高齢者施設）へ出掛けたり、訪ねたりなど様々な年代の方と、お話やお遊戯、歌などで楽しい交流を図った。

・菜園活動

ジャガイモ、サイツマイモ、いろいろな野菜を植え、成長過程を観察し、収穫を喜び合った。

⑤青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

青森中央経理専門学校

・地域活動・出前講座

○学生パソコン教室開催

地域社会貢献・地域活動の一環として、学校が所有する物的資源人的資源を活用し「パワーポイントで作るお年玉袋作成講座」と題して専門課程1年生が地域の方々を対象にして12月5日（土）に公開講座を実施した。また、8月27日（木）、28日（金）の2日間、青森県総合社会教育センターにて、経理専門学校の学生がインストラクターとして、一般の受講者を対象にワード・エクセルのパソコン講座を開催した。

○出前講座「10代から学ぶマネー講座」実施

高校生や地域団体等を対象に、日々の生活から切り離すことができない「お金」と向き合うきっかけとなるよう、初歩からの金融リテラシーを体験する講座として下記の高校にて実施した。

実施日	高校名
令和3年 1月27日（水）	弘前東高等学校

○金木高校にてSPI対策講座を実施

就職希望者の講座として7月27日と8月3日計2回6時間、同校にて10名の受講生に講習を実施した。

・経理事務コース・医療事務コース、観光コンシェルジュコース課外授業

○経理事務コース

青森県金融広報委員会がバックアップしている金融学習グループ勉強会を下記の内容で実施し、金融・お金に関する知見を深めた。

実施日	内容（テーマ）
令和2年 6月19日（金）	社会保険の基礎について
令和2年 7月31日（金）	労働とお金について
令和2年11月 6日（金）	税理士とお金について
令和3年 2月15日（月）	若者に多い消費者トラブルとその予防策について
令和3年 2月16日（火）	お部屋探しにかかるお金って？
令和3年 2月18日（木）	消費税（軽減税率）について

○医療事務コース

医療事務コースの学生が実習先の病院・調剤薬局にて総合受付（接遇）や外来診療データと診療録との整合性チェック等の職場実習を実施した。

病院名・調剤薬局名	日程
まちだ内科クリニック	9/17～10/22 の期間内 5回
中央調剤薬局	8/25～9/11 の期間内 2回
テック調剤薬局	8/7～8/20 の期間内 3回
サン調剤薬局	10/13～10/15 の期間内 2回

○観光コンシェルジュコース

1年生は12/10 1/14 1/21 に新青森駅の観光案内所にて観光案内補助の実習を体験した。2年生は同日 ねぶたの家 ワ・ラッセにて来館者へアテンダントやねぶた体験補助の実習をさせて頂いた。

- ・公開講座

令和2年12月19日に新町キューブ3階会議室にて、公開講座「こんな時だから考えたい！“ワークスタイル” & “マネーリテラシー”～この不確実な世界をサバイブしていくために～」を開催した。

- ・オールあおもり青森県職業体験フェアに参加（開催中止）

令和2年10月27日 青森産業会館 10月29日 むつ来さまい館 11月5日 青森県武道館 11月10日 きざん八戸にて参加予定だった「オールあおもり」大学・専修学校等魅力発信事業と同時開催である青森県専門学校各種学校連合会主催の「青森県職業体験フェア」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

- ・学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会の実施

9月4日と3月5日に、外部委員による上記委員会を開催し、教育内容等の評価改善を進めた。

- ・研修旅行実施

令和2年11月16日～18日、2泊3日の行程で予定していた1・2年合同の研修旅行は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。代替としてGoToトラベルを利用して2年生のみ11月18日に青森県内（八戸地区）の日帰り研修旅行を実施した。

青森中央文化専門学校

・ファッションショーの実施

○例年実施しているファッションショー「Bunka Fashion Live」が文化芸術創造活動緊急対策事業補助金事業に採択され、令和2年12月19日、青森市駅前「アウガ」の5階 AV 多機能ホールに於いて「Infinity」と題し、開催。今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止を鑑み、本校初となる YouTube での Live 配信を実施。なお、青森中央短期大学幼児保育学科卒業記念講演と同日開催。

・ポップアップショップの実施

○期間限定のアパレルショップを実施。商品のセレクトから価格設定・什器配置・商品レイアウトや販売まで、店舗運営の全てを学生が企画し、ファッション販売業務に対する理解を深め、2年間で身につけた技術のスキルアップを目的とした実習へ取り組んだ。

・配信セミナー参加

○ファッションブランド アンリアレイジ のデザイナー・森永邦彦氏による全国の文化連鎖校が参加した配信セミナーへ参加。森永氏が初めて手掛けたパッチワークジャケットを紹介しながら、独自の着眼点から実現に至るまでの例をいくつも解説。本校の参加生徒も質疑応答で森永氏とコンタクトを取り、学生たちにとってとても刺激的な時間となった。

・衣装デザイン、制作、発表

○東京・丸の内にて行われた「TOKYO CREATIVE SALON 21・MARUNOUCHI FASHION WEEK 2021」内で開催された「Future Designer Collection」に出展。デザインから縫製、フルコーディネートまで行った5体を発表。作品が多くの方に触れ、発表される場となり、文字通り、「未来のクリエイターたちのパワー」が集結したファッションショーとなった。

・さをり織りスーツ制作

○「社会福祉法人積善会 森の工房ふれ・あい」より、さをり織り班・穂元則人氏から「自分で織ったさをり織り生地のスーツを作りたい」と依頼があり、デザインから制作までを協力。着脱のしやすさを意識した、普段の既製服とは違う、制限される部分もある中での新たなデザインやパターン展開を学んだ。

・作品展示

○例年作品展示で参加していた、ファッション甲子園・青森市民文化祭・駅前スクエアでの展示は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

・公開講座開講

○フレンドリーウインドウ手芸講座開講（一般・学生対象）

例年実施している、一般・学生を対象とした公開講座「フレンドリーウインドウ」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

・アパレル専攻・ファッション販売専攻職場実習

○企業実習（アパレル専攻）

アパレル専攻では令和2年10月14日～11月19日の期間中、株式会社蓬田紳装にてオーダーメイドスーツ・ジャケットやパンツ製作・パターン作成、株式会社アプティマルワにて特殊ミシンの使用法・カットソーアイテムの縫製等の実習をそれぞれ行った。

○店舗実習（ファッション販売専攻）

ファッション販売専攻では、令和2年10月7日～11月18日、令和3年1月20日～2月17日の期間中、個々に希望する株式会社ジーユー・ROOM+MILK・BreSizu の店舗にてファッションアドバイザー実習を行った。

・地域活動・出前講座

○地域活動の一環として出前講座を行った。

日程	場所	講座名	内容
9/2	筒井中学校	アパレルの職業理解ガイダンス	ファッション業界の仕事内容と職業に必要な知識とキャリア
9/14	青森中央高校	ファッションショーに向けてウォーキング指導	ファッションショーに向けてのウォーキング・ポージング
12/17	沖館中学校	アパレルの職業理解ガイダンス	ファッション・アパレルのお仕事について

・青森県職業体験フェアに参加（開催中止）

令和2年10月27日 青森産業会館 10月29日 むつ来さまい館 11月5日 青森県武道館 11月10日 きざん八戸にて参加予定だった「オールあおもり」大学・専修学校等魅力発信事業と同時開催である青森県専門学校各種学校連合会主催の「青森県職業体験フェア」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

・研修旅行実施（開催中止）

令和2年11月2日～4日、2泊3日の行程で予定していた研修旅行は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

・学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会の実施

令和2年9月4日と令和3年3月5日に、外部委員による上記委員会を開催し、教育内容等の評価、改善を進めた。

(2) 教育研究の概要

①教育研究上の基準となる組織に関する情報

大学等	学部・研究科等	学科等	課程・専攻等
青森中央学院大学	経営法学部 看護学部 別科助産専攻 地域マネジメント研究科	経営法学科 看護学科 地域マネジメント専攻	
青森中央短期大学		食物栄養学科 幼児保育学科 専攻科	福祉専攻
認定こども園 青森中央短期大学 附属第一幼稚園			
認定こども園 青森中央短期大学 附属第二幼稚園			
認定こども園 青森中央短期大学 附属第三幼稚園			
青森中央文化専門学校		職業実践専門課程 (服飾専門課程) トータルファッション科	アパレル専攻 ファッション販売専攻
青森中央経理専門学校		職業実践専門課程 (商業実務専門課程) 経理情報科	経理事務コース 医療事務コース 観光コンシェルジュコース

教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

令和3年5月1日現在

大学等	学部・学科等		教員数
青森中央学院大学	経営法学部経営法学科 大学院地域マネジメント研究科 地域マネジメント研究所		34名 (教授16名、准教授7名、講師10名、助教1名)
【経営法学部教員の保有学位または職務上の実績等】			
職名	氏名	学位	職務上の実績等
学長、教授	佐藤 敬	医学博士	元弘前大学学長
教授、学部長	小俣 勝治	修士（法学）	青森労働局・労働審議会委員
教授、地域マネジメント研究科長	内山 清	修士（経済学）	元(株)長銀総研コンサルティング 主席研究員
教授	岩船 彰	法学士	青森市指定管理者候補者選定委員 青森市建築審査会委員
教授	塩谷 未知	修士（農学）	元(株)価値総合研究所取締役
教授	加藤 澄	博士（言語学）	裁判所 民事・家事調停員 弘前大学大学院医学研究科附属子どものこころの発達研究センター客員研究員
教授	鈴木 克成	修士（哲学）	学習支援センター長
教授	井口 義久	修士（経営学）	日本経営実務研究学会 理事 日本経営診断学会 監事 入試広報センター長
教授	小松原 聡	学士（工学）	地域マネジメント研究所長 元(株)三菱総合研究所参与
教授	藤巻 啓森	博士（学術）	元中国東北師範大学人文学院日本語言文化学院学院長 青森県日中友好協会理事 青森長春教育學術文化交流協会専務理事 国際交流センター長
教授	成田 昌造	経営学士	元青森県立高等学校校長 青森県青少年健全育成審議会 委員 公益財団法人「青森県学校給食会」理事 公益財団法人「三浦財団」評議員 地域連携センター長
教授	大泉 常長	修士（国際経済学）	学長補佐、基幹教育センター長
教授	三上 雅生	文学士	元青森市立中学校長
教授	井原 孝延	修士（商学）	

教授	竹内 紀人	修士（経営経済学）	キャリア支援センター長 青森県金融広報委員会金融広報アドバイザー
教授	廣瀬 孝壽	修士（法学）	
准教授	椎名 智彦	修士（法学）	
准教授	金 美和	修士（法学）	青森県消費者契約等事例検討委員会委員
准教授	グエン チ ギア	博士（経営学）	
准教授	山本 俊	博士（経営経済学）	
准教授	木村 隆雄	理学士	元㈱富士通 システムエンジニア
准教授	楠奥 繁則	博士（経営学）	
准教授	楠山 大暁	修士（経済学）	
講師	新免 圭介	修士（経営情報学）	
講師	鈴木 芳美	修士（商学）	
講師	田中 真寿美	修士（地域研究）	
講師	太田 航平	修士（法学）	
講師	柚原 愛子	修士（法学）	
講師	庄子 元	博士（地学）	小学校教諭一種免許、中学校教諭一種免許（社会）
講師	福田 隆巳	修士（経済学）	
講師	山谷 清秀	博士（政策科学）	
講師	姜 尚民	博士（経営学）	
講師	菅沢 大輔	修士（法学）	
助教	志喜屋カロリーナ	修士（人文学）	

大学等	学部・学科等	教員数	
青森中央学院大学	看護学部看護学科 別科助産専攻	31名 (教授9名、准教授5名、講師6名、助教6名、助手5名)	
【看護学部教員の保有学位または職務上の実績等】			
職名	氏名	学位	職務上の実績等
教授	一戸とも子	博士（医学）	学部長、看護師 日本放射線看護学会理事 日本看護研究学会査読委員 青森県看護協会保健師助産師看護師実習指導者講習会講師 看護実践センター長
教授	北原 かな子	博士（国際文化）	青森県史調査研究員 独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会委員 図書館情報センター長
教授	玉熊 和子	博士（教育学）	看護師、助産師
教授	伊藤 道子	修士（看護学）	別科助産専攻主任、看護師、保健師、助産師
教授	秋庭 由佳	博士（看護学）	看護師
教授	三國 裕子	博士（保健学）	看護師、認定看護師（訪問看護）
教授	坂井 哲博	博士（医学）	元むつ総合病院副院長
教授	木村 千代子	修士（人間科学）	看護師
教授	齋藤 美紀子	修士（看護学）	看護師
准教授	中川 孝子	修士（看護学）	看護師 知症疾患医療連携協議会構成員 地域密着型サービス外部評価審査委員
准教授	其田 貴美枝	博士（健康科学）	看護師、一般社団法人日本在宅看護学会 理事
准教授	川添 郁夫	博士（健康科学）	看護師、救急救命士
准教授	藤澤 珠織	修士（理学）	看護師、学芸員資格 日本古病理学研究会（理事）
准教授	松島 正起	博士（看護学）	看護師、臨床工学技師
講師	石岡 桂子	学士（家政学）	看護師、助産師、精神保健福祉士
講師	菊池 美智子	修士（看護学）	看護師、保健師
講師	三上 ふみ子	修士（保健学）	看護師、助産師
講師	木村 峰子	修士（医療福祉学）	看護師、保健師
講師	造田 亮子	修士（国際協力）	看護師、保健師

講師	福士 文子	学士（看護学）	看護師、助産師
助教	中村 祥子	修士（看護学）	看護師、保健師
助教	太田 尚子	修士（看護学）	看護師、保健師
助教	丸山 夏弥	修士（保健学）	看護師、保健師、助産師
助教	外 千夏	学士（教育学）	看護師、助産師
助教	熊谷 和可子	短期大学士（看護学）	看護師
助教	山上 順矢	学士（健康保健学）	看護師、保健師
助手	福士 裕紀	短期大学士（看護学）	看護師
助手	柿崎 はるな	短期大学士（看護学）	看護師
助手	福田 雅美	学士（看護学）	看護師、保健師
助手	木村 琴美	短期大学士（看護学）	看護師
助手	鎌田 千夏	短期大学士（看護学）	看護師

大学等	学科	教員数	
青森中央短期大学	食物栄養学科	15 名（教授 4 名、准教授 3 名、講師 4 名、助教 1 名、助手 3 名）	
【食物栄養学科教員の保有学位または職務上の実績等】			
職 名	氏 名	学 位	職務上の実績等
学長、教授	久保 薫	修士（家政学）	食物栄養学科長 管理栄養士 青森県食育推進会議副議長 青森県水産振興審議会会長 青森県学校給食表彰審査会委員
教授	宮田 篤	修士（文学）	日本ビジネス実務学会 理事，編集委員 日本ビジネス実務学会 関東・東北ブロックリーダー 日本インターンシップ学会 東日本支部運営委員
教授	棟方 秀和	修士（理学）	青森県医師会健やか力推進センター推進協議会委員
教授	田村 義文	文学学士	中学校教諭一級普通免許（国語）
准教授	清澤 朋子	修士（農学生命科学）	食物栄養学科長補佐、青森県農政審議会 委員
准教授	木村 亜希子	修士（地域マネジメント）	
准教授	森山 洋美	修士（保健学）	管理栄養士
講師	舩澤 正博		管理栄養士
講師	池田 友子	家政学士	管理栄養士、元青森県栄養士会副会長
講師	浜中 幸美		管理栄養士
講師	本間 維	修士（情報学）	司書、日本図書館協会 分類委員会（NDC-LD 専門委員）
助教	辻村 明子	修士（栄養学）	管理栄養士
助手	白取 敏江	修士（社会学）	管理栄養士 公益社団法人青森県栄養士会 青森地区運営委員（会計）
助手	外崎 秀香	修士（農学生命科学）	
助手	千葉 綾乃	修士（健康科学）	管理栄養士

大学等	学科		教員数
青森中央短期大学	幼児保育学科	12 名（教授 4 名、准教授 4 名、講師 1 名、助教 2 名、助手 1 名）	
	専攻科福祉専攻	3 名（准教授 1 名、講師 2 名）	
【幼児保育学科教員の保有学位または職務上の実績等】			
教授	大沢 陽子	体育学士	幼児保育学科長
教授	石田 憲久	経済学士	青森田中学園理事長
教授	大橋 誠	教育学士	
教授	前田 美樹	修士（教育学）	幼児保育学科長補佐
准教授	鈴木 寛康	修士（体育学）	元サッカーナショナルトレーニングセンター「J-Village」フィットネスクラブ サブマネージャー兼チーフインストラクター
准教授	伊藤 弓月	修士（社会福祉学）	専攻科主任
准教授	木村 貴子	修士（教育学）	日本レクリエーション協会公認レクリエーション・インストラクター、 日本レクリエーション協会 音楽レクリエーション講師
准教授	松浦 淳	修士（教育情報学）	青森市健康福祉審議会 児童福祉専門部会 会長 青森市子ども子育て委員会 委員 青森青年国際交流機構(青森 IYEO)会長
准教授	兼平 友子	修士（教育学）	幼稚園教諭専修免許、小学校教諭専修免許
講師	齋藤 雅美	修士（社会福祉学）	介護福祉士、社会福祉主事
講師	天間 美由紀	修士（教育学）	精神保健福祉士
講師	杉田 由佳理	修士（地域マネジメント）	看護師、主任看護支援専門員
助教	具志堅 裕介	修士（表現学）	小学校教一種免許、中学校・高等学校教諭一種免許（美術）
助教	前田 一明	修士（社会学）	中学校・高等学校教諭一種免許（音楽）
助手	畑山 朗詠	修士（教育学）	幼稚園教諭二種免許、保育士資格

年齢別教員数（令和3年5月1日現在）

大学名	学部学科	～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	70 歳 以上
青森中央学院大学	経営法学部 経営法学科	0	9	6	7	7	5
	看護学部 看護学科 別科助産専攻	0	8	7	11	4	1
青森中央短期大学	食物栄養学科	0	4	3	3	5	0
	幼児保育学科	2	1	5	1	1	2
	専攻科福祉専攻	—	—	2	1	—	—

男女別教員数（令和3年5月1日現在）

大学名	学部学科	男	女
青森中央学院大学	経営法学部 経営法学科	28	6
	看護学部 看護学科 別科助産専攻	5	26
青森中央短期大学	食物栄養学科	5	10
	幼児保育学科	6	6
	専攻科福祉専攻	1	2

③学生に関する情報

(単位：人)

大学等	学部・研究科	入学者数	収容定員	在学者数	卒業者数	進学者数	就職者数
青森中央 学院大学	経営法学部 (経営法学科)	[入学に関する基本的な方針] 豊かな人間性に立ち、よりよき人生を創造するとともに、社会的正義に立って社会の発展に貢献する、進取性に富み良識ある職業人を養成します。経営法学部の入学者受入方針として以下を掲げます。 1. 経営学や法学の専門知識を活かし、地域社会、国際社会のなかで活躍しようという意欲をもつ人 2. 人間性が豊かで、責任感のある人 3. 旺盛な知的好奇心をもち、自ら積極的に学習や研究に取り組む意欲をもつ人 4. 学問のみならずサークルやボランティア活動で独自の優れた個性を発揮する意欲をもつ人					
		181名	670名	730名	169名	5名	143名
	地域マネジメント研究科 (地域マネジメント専攻)	[入学に関する基本的な方針] 地域に貢献できる人材の養成を目指して、法律的な思考と知識を経営的な意思決定過程に織り込み、創造的・応用的・総合的なマネジメントを成し得る高度な職業人の育成を目的としています。地域マネジメント研究科の入学者受入方針として以下を掲げます。 1. 地域における課題を広くとらえ、日本あるいは世界の地域の発展に貢献しようとする強い意識を持つ人 2. 将来の目標を明確に持ち、基礎的専門知識および一般教養を身につけている人 3. 新時代を切り開く意欲と創造性に溢れる人					
		4名	20名	11名	4名	0名	4名
	看護学部 (看護学科)	[入学に関する基本的な方針] 生命の尊厳を尊重し豊かな人間性を備えて一人ひとりの「生」に寄り添い、科学的根拠に基づく判断力と技術による実践力を有し、他の職種と協働しつつ看護の向上に資する研鑽力を養い、地域社会の保健医療福祉に貢献できる人材を養成することを目的とします。看護学部の入学者受入方針として以下に掲げます。 1. 人間の尊厳に対する感性を持ち、人を大切にできる人 2. 人が生まれ社会で生活していく過程を科学的に理解するための基礎学力を有している人 3. 人への関心を持ち、どのような人とも対等にコミュニケーションができ、協働性が図れる人 4. 主体的に行動できる人					
		84名	320名	351名	81名	0名	79名

[illegible]

大学等	学部・研究科	入学者数	収容定員	在学者数	卒業者数	進学者数	就職者数
青 森 中 央 短 期 大 学	食物栄養 学科	[入学に関する基本的な方針] 青森中央短期大学では「愛あれ、知恵あれ、真実あれ」という建学の精神に基づき、自立して生きていくために必要な豊かな人間性と実学を身につけることを教育理念としております。食物栄養学科の入学者受入方針として以下に掲げます。 1. 季節や地域ごとの特徴ある食事や食生活を大切にし、食に対する感性を高めたい人 2. 人体の健康・栄養状態に見合った食事を提供し、人々の健康で明るく楽しい生活の実現に貢献したい人 3. 現代社会が抱えるさまざまな食や栄養の課題に主体的に取り組みたい人 4. 社会のルールや人との約束を守り、専門職に必要な高い規範意識と倫理観を備えたい人 5. 意見の違いや立場の違いに配慮し、周囲と協調・協働して行動したい人					
		60名	120名	104名	52名	2名	50名
	幼児保育 学科	[入学に関する基本的な方針] 青森中央短期大学では「愛あれ、知恵あれ、真実あれ」という建学の精神に基づき、自立して生きていくために必要な豊かな人間性と実学を身につけることを教育理念としております。幼児保育学科の入学者受入方針として以下に掲げます。 1. 本学科の教育内容を適切に理解し、学ぶ意欲のある人 2. 広く子どもに関する関心が高く、幼児教育の重要性を認識できる人 3. 保育者に必要な創造力や感性をさらに豊かにするために努力できる人 4. コミュニケーション力や協調性が高く、責任ある行動のとれる人 5. 社会福祉（介護福祉を含む）分野にも広く興味・関心を示し、向学心が旺盛な人					
		57名	200名	111名	75名	6名	67名
	専攻科 福祉専攻	[入学に関する基本的な方針] 青森中央短期大学では「愛あれ、知恵あれ、真実あれ」という建学の精神に基づき、自立して生きていくために必要な豊かな人間性と実学を身につけることを教育理念としております。専攻科福祉専攻の入学者受入方針として以下に掲げます。 1. 介護を学ぶために必要な基礎的学力とコミュニケーション能力を有している人 2. 進んで学習する意欲があり、介護福祉を目指す強い意志がある人 3. 協調性と他者を思いやる気持ちがあり、最後まで努力を惜しまない人 4. 誠実で責任感があり、自ら進んで行動できる人					
		5名	25名	5名	6名	0名	6名
	[就職者数及び卒業後の進路] 近年の就職、採用活動開始時期の変更の影響もなく、青森中央短期大学は専門職として地元の求人に応えている。学生は自己の知識、技術を向上させ、各自の将来を考えながら就職活動を行っていた。各学科等の就職率は食物栄養学科 96.2%、幼児保育学科 89.4%、専攻科福祉専攻 100%となっており栄養士、幼稚園教諭・保育士、介護福祉士、また、認定こども園における保育教諭など、全体の 52.0%がそれぞれの専門性を活かし、県内就職している。さらに専門職としての向上を目指し、四大等への編・入学者の数も増えている。						

※入学者数、収容定員、在学者数は令和3年5月1日現在

※卒業者数、進学者数、就職者数は令和3年3月31日現在

社会人学生数・留学者数（令和３年度）

（単位：人）

大学名	学部学科等	社会人学生 (社会人特別選抜による)	留学生	海外派遣学生 (令和２年度)
青森中央学院大学	経営法学部	0	82	0
	経営法学科			
	看護学部看護学科	0	—	0
	別科助産専攻	1	—	0
青森中央学院大学大学院	地域マネジメント研究科	1	10	0
青森中央短期大学	食物栄養学科	9	—	0
	幼児保育学科	4	—	0
	専攻科福祉専攻	0	—	0

入学者推移（令和３年５月１日現在）

（単位：人）

大学名	学部学科等	平成３０年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
青森中央学院大学	経営法学部	189	186	181	181
	経営法学科				
	看護学部看護学科	93	93	94	84
	別科助産専攻	5	5	5	5
青森中央学院大学大学院	地域マネジメント研究科	7	5	6	4
青森中央短期大学	食物栄養学科	56	55	45	60
	幼児保育学科	72	75	58	57
	専攻科福祉専攻	8	7	6	5

入学志願者数推移（令和３年５月１日現在）

（単位：人）

大学名	学部学科等	平成３０年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
青森中央学院大学	経営法学部	274	255	255	266
	経営法学科				
	看護学部看護学科	179	181	199	178
	別科助産専攻	15	12	24	
青森中央学院大学大学院	地域マネジメント研究科	12	5	12	5
青森中央短期大学	食物栄養学科	67	73	52	71
	幼児保育学科	78	79	63	59
	専攻科福祉専攻	8	7	6	5

受験者数推移（令和3年5月1日現在）

（単位：人）

大学名	学部学科等	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
青森中央学院大学	経営法学部 経営法学科	269	252	252	244
	看護学部看護学科	174	179	191	175
	別科助産専攻	15	12	24	13
青森中央学院大学大学院	地域マネジメント研究科	12	5	12	5
青森中央短期大学	食物栄養学科	67	72	52	70
	幼児保育学科	78	79	62	59
	専攻科福祉専攻	8	7	6	5

合格者数推移（令和3年5月1日現在）

（単位：人）

大学名	学部学科等	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
青森中央学院大学	経営法学部 経営法学科	241	246	240	227
	看護学部看護学科	137	146	144	144
	別科助産専攻	5	5	5	5
青森中央学院大学大学院	地域マネジメント研究科	8	5	8	5
青森中央短期大学	食物栄養学科	67	70	50	70
	幼児保育学科	78	79	61	59
	専攻科福祉専攻	8	7	6	5

学位授与数（令和3年3月31日現在）

（単位：人）

大学名	学部学科等	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
青森中央学院大学	経営法学部 経営法学科	125	151	155	169
	看護学部看護学科	79	85	95	81
青森中央学院大学大学院	地域マネジメント研究科	8	12	6	4
青森中央短期大学	食物栄養学科	51	52	56	53
	幼児保育学科	74	70	69	75
	看護学科	0	1	—	—

収容定員充足率（令和３年５月１日現在）

（単位：％）

大学名	学部学科等	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
青森中央学院大学	経営法学部	104	106	110	109
	経営法学科				
	看護学部看護学科	114	114	111	110
	別科助産専攻	100	100	100	100
青森中央学院大学大学院	地域マネジメント研究科	100	55	55	55
青森中央短期大学	食物栄養学科	95	94	83	87
	幼児保育学科	73	74	67	56
	専攻科福祉専攻	32	28	24	20

中途退学者数 ※除籍者数含む

（単位：人）

〔 〕内は中退率 ※中途退学者／在籍者数×100＝中退率

（単位：％）

大学名	学部学科等	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
青森中央学院大学	経営法学部	33[4.7]	37[5.1]	28[3.8]	26[3.5]
	経営法学科				
	看護学部看護学科	6[1.6]	8[2.2]	9[2.5]	8[2.2]
	別科助産専攻	—	0[0.0]	0[0.0]	0[0.0]
青森中央学院大学大学院	地域マネジメント研究科	0[0.0]	2[10.0]	0[0.0]	0[0.0]
青森中央短期大学	食物栄養学科	4[3.5]	4[3.5]	3[2.7]	2[2.0]
	幼児保育学科	3[2.0]	4[2.7]	3[2.0]	4[3.0]
	看護学科	—[—]	—[—]	—[—]	—[—]
	専攻科福祉専攻	0[0.0]	0[0.0]	0[0.0]	0[0.0]

留年者数（令和２年３月３１日現在）

（単位：人）

大学名	学部学科等	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
青森中央学院大学	経営法学部	7	18	19	15
	経営法学科				
	看護学部看護学科	9	12	4	0
	別科助産専攻	—	0	0	0
青森中央学院大学大学院	地域マネジメント研究科	1	0	0	1
青森中央短期大学	食物栄養学科	1	5	1	1
	幼児保育学科	0	4	2	0
	専攻科福祉専攻	0	0	0	0

④教育課程に関する情報

イ．授業科目の名称

本学ホームページ上に青森中央学院大学、大学院、青森中央短期大学の学則及び授業科目一覧表を公表している。

ロ．取得可能資格

学校名	学科名	取得可能資格
青森中央学院大学	経営法学部経営法学科	中学校教諭一種免許「社会」 高等学校教諭一種免許「公民」「商業」 司書資格 学校図書館司書教諭免許 社会福祉主事任用資格 上級秘書士資格 防災士資格
	看護学部看護学科	看護師国家試験受験資格 保健師国家試験受験資格
	別科助産専攻	助産師国家試験受検資格
	大学院地域マネジメント研究科	税理士試験科目免除
青森中央短期大学	食物栄養学科	栄養士免許 栄養教諭二種免許 フードスペシャリスト認定試験受験資格 専門フードスペシャリスト認定試験受験資格 (食品開発、食品流通・サービス) フードサイエンティスト資格 社会福祉主事任用資格 司書資格 秘書士資格
	幼児保育学科	幼稚園教諭二種免許 保育士資格 社会福祉主事任用資格 レクリエーションインストラクター資格 ※所定の講習を受講し認定を受ける資格 幼児体育指導者認定資格 JFA 公認キッズリーダー カワイピアノグレード
	専攻科福祉専攻	介護福祉士資格

学校名	学科名	取得可能資格
青森中央経理専門学校	商業実務専門課程 経理情報科	専修学校准教員資格 共通資格 日商簿記検定 1～3 級 全経簿記能力検定 1～3 級 IT パスポート 情報活用検定 日商 PC 検定 C 言語プログラミング能力認定試験 WEB クリエーター能力認定試験 ビジネス能力検定 ニュース時事能力検定 秘書技能検定
	・経理事務コース	ファイナンシャル・プランニング技能検定 所得税法・法人税法・消費税法計算実務能力検定・全経コンピュータ会計能力検定
	・医療事務コース	医事コンピュータ技能検定 医療事務技能審査試験（医科） 電子カルテ実技検定 調剤事務管理士技能試験
	・観光コンシェルジュコース	国内旅行業務取扱管理者試験 総合旅行業務資格管理者試験 旅行地理検定
青森中央文化専門学校	服飾専門課程 トータルファッション科 ・アパレル専攻	専修学校准教員資格 パターンメイキング技術検定 ファッションビジネス能力検定 ファッション色彩能力検定 洋裁技術検定
	服飾専門課程 トータルファッション科 ・ファッション販売専攻	専修学校准教員資格 ファッションビジネス能力検定 ファッション色彩能力検定 ファッション販売能力検定 洋裁技術検定

⑤学修の成果に関する評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

大学等	学部・ 研究科等	就業 年限	必要取得 単位数	科目区分ごとの 修得単位数			修得可能な 学位及び専攻名称
				必修	選択	—	
青森中央 学院大学	経営法学部 経営法学科	4年	124単位	32単位	92単位	—	学士（経営法学）
	看護学部 看護学科	4年	125単位	110単位	15単位	—	学士（看護学）
	別科助産専攻	1年	31単位	30単位	1単位	—	
	地域マネジメント研究科 地域マネジメント専攻	2年	30単位	14単位	16単位	—	修士（地域マネジメント）
青森中央 短期大学	食物栄養学科	2年	70単位	29単位	41単位	—	短期大学士（食物栄養学）
	幼児保育学科	2年	70単位	34単位	36単位	—	短期大学士（幼児保育学）
	専攻科福祉専攻	1年	53単位	53単位	0単位	—	

⑥学習環境に関する情報

大学等	キャンパス	学部 研究科	所在地	主な交通手段
青森中央 学院大学		経営法学部 看護学部 地域マネジメント研究科	青森市横内字神田 1 2 番地	・通学には青森駅から専用スクールバスが運行しています。 ・マイカー通学も可能です。(学生駐車場完備) ・バスで青森駅から「モヤヒルズ」行、「ねぶたの里」行、「青森公立大学」行に乗車約 2 5 分、「青森中央学院大学前」下車。
	神田 キャンパス	[キャンパスの概要] 青森市街に程近く、近代的な本部棟を中心に、学びの意欲を刺激し、緑ゆたかな環境と情報発信のための施設が充実している。建物は本部棟・1号～9号館、キャンパス内には、学生寮・銀行C S コーナー・郵便ポスト・コンビニなど私生活で利用したい施設もあります。		
		[運動施設の概要] 野球場：両翼9 4 m、センター1 2 0 m サッカー場（人工芝）：1 0 5 m×6 8 m テニスコート：全天候型3面・ハンドボールコート2面 体育館：アリーナ・ロビー・更衣室・シャワー室完備 トレーニングルーム：筋力トレーニング機器（1 2 種類、エアロバイク 2 種 4 台） 第2体育館：ハンドボール・フットサル1面、バスケットボール壁面式2面並列・吊下式1面、バレーボール2面並列、バトミントン6面、ギャラリー150 席分、更衣室男女各1室、ミーティングルーム2室 柔道場：2面5 0 畳。ボクシングジム：リング完備		
		[課外活動の状況] 体育会系 2 0 団体 柔道部・硬式野球部・サッカー部・バスケットボール部・ボクシング部・ハンドボール部・ボウリング部・テニスサークル・バトミントンサークル・軟式野球サークル・フットサルサークル・自転車サークル・走るサークル・卓球サークル・乗馬サークル・フィッシングサークル・ドッジボールサークル・カーリングサークル他 文化会系 2 4 団体 F S A ・ねぶた囃子方部・書道部・軽音楽部・アンサンブルサークル・アカペラサークル・献血推進サークル・津軽三味線サークル、ソーシャルビジネス研究会・学生団体ディラボ・K・POP ダンスサークル・他		

大学等	キャンパス	学部 研究科	所在地	主な交通手段
青森中央 短期大学		食物栄養学科 幼児保育学科 専攻科福祉専攻	青森市横内字神田 1 2 番地	・通学には青森駅から専用スクールバスが運行しています。 ・マイカー通学も可能です。（学生駐車場完備） ・バスで青森駅から「モヤヒルズ」行、「ねぶたの里」行、「青森公立大学」行に乗車約 2 5 分、「青森中央学院大学前」下車。
	神田 キャンパス	[キャンパスの概要] 青森市街に程近く、近代的な本部棟を中心に、学びの意欲を刺激し、緑ゆたかな環境と情報発信のための施設が充実している。建物は本部棟・1 号館～9 号館、キャンパス内には、学生寮・銀行 C S コーナー・郵便ポスト・コンビニなど私生活で利用したい施設もあります。		
		[運動施設の概要] 野球場：両翼 9 4 m、センター 1 2 0 m サッカー場（人工芝）：1 0 5 m×6 8 m テニスコート：全天候型 3 面・ハンドボールコート 2 面 体育館：アリーナ・ロビー・更衣室・シャワー室完備 トレーニングルーム：筋力トレーニング機器（1 2 種類、エアロバイク 2 種 4 台） 第 2 体育館：ハンドボール・フットサル 1 面、バスケットボール壁面式 2 面並列・吊下式 1 面、バレーボール 2 面並列、バトミントン 6 面、ギャラリー 150 席分、更衣室男女各 1 室、ミーティングルーム 2 室 柔道場：2 面 5 0 畳。ボクシングジム：リング完備		
		[課外活動の状況] 積極的にボランティア活動に取り組んでおり、「学生による食育推進活動」、「障がい児サッカーサポート」、「障がい児スポーツ活動支援」をはじめとして、年間延べ 1 0 0 名以上の学生がボランティア活動に参加した。 短期大学独自のサークルとして、セルクルサークル・ビオトープサークル・中短♪音れくサークル・JAF ドレミぐる一ふがあり、学院大と合同のサークルなどの活動にも参加した。		

⑦学生納付金に関する情報

大学等	学部 研究科等	授業料		入学金		その他の費用徴収	
		金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期
青森中央 学院大学	経営法学部	650,000 円	年 2 回 3 月・9 月	200,000 円	合格発表後 1 0 日以内	350,000 円	年 2 回 3 月・9 月
		[授業料支援制度の概要] ・成績優秀学生の授業料減免の特待生制度 ・教育ローン利子補給奨学金制度 大学指定の教育ローンを利用して、学納金を完納した場合に、選定の上、教育ローンの年利息額を奨学金（上限 5 万円）として支給する。 ・子弟入学入学金減免制度 ・公務員講座報奨金 ・スポーツ特待生の授業料免除制度 ・派遣留学生奨学金 ・設置校入学に伴う入学金減免制度 ・附属幼稚園卒園者入学金減免制度					
	看護学部	800,000 円	年 2 回 3 月・9 月	250,000 円	合格発表後 1 0 日以内	350,000 円	年 2 回 3 月・9 月
		[授業料支援制度の概要] ・成績優秀学生の授業料減免の特待生制度 ・教育ローン利子補給奨学金制度 ・子弟入学入学金減免制度 ・派遣留学生奨学金 ・設置校入学に伴う入学金減免制度 ・附属幼稚園卒園者入学金減免制度					
	地域マネジメント研究科	650,000 円	年 2 回 3 月・9 月	200,000 円	合格発表後 1 0 日以内	200,000 円	年 2 回 3 月・9 月
		[授業料支援制度の概要] ・教育ローン利子補給奨学金制度 ・子弟入学入学金減免制度 ・設置校入学に伴う入学金減免制度					
青森中央 短期大学	食物栄養学科 幼児保育学科	550,000 円	年 2 回 3 月・9 月	250,000 円	合格発表後 1 0 日以内	270,000 円	年 2 回 3 月・9 月
		[授業料支援制度の概要] ・教育ローン利子補給奨学金制度 ・派遣留学生奨学金 ・子弟入学入学金減免制度 ・上級学校への進学者に対する奨学金 ・設置校入学に伴う入学金減免制度 ・附属幼稚園卒園者入学金減免制度 ・成績優秀学生の授業料減免の特待生制度					
	専攻科 福祉専攻	520,000 円	年 2 回 3 月・9 月	180,000 円	合格発表後 1 0 日以内	200,000 円	年 2 回 3 月・9 月
		[授業料支援制度の概要] ・教育ローン利子補給奨学金制度 ・子弟入学入学金減免制度 ・本学卒業または卒業見込みの者は、入学金を免除する。 ・設置校入学に伴う入学金減免制度					

⑧学生支援と奨学金に関する情報

<学生支援組織>

	組織名	機能
就職支援	キャリア支援センター	職業紹介（求人依頼、受付、公開、企業開拓）、 「キャリアプランニング」「就職セミナー」の 企画運営、就職相談、卒業生のフォロー
進学支援	キャリア支援センター	進学先（編入学、大学院、専攻科等）の紹介、 進学セミナーの実施、進学相談
学習相談	学務課 学習支援センター	履修科目・課程履修についての相談、成績不振 者の支援、リメディアル科目の開講
生活支援 (住居・アルバイト等)	総務課 学習支援センター	学生会館（学生寮）の管理、アパート・下宿等 の紹介、アルバイトの紹介、ワークスデイ制度
経済支援	学務課 総務課	各種奨学金手続き〈外国人留学生を除く〉、教 育ローンの紹介、特待生制度
保健・衛生・ メンタルヘルス等	健康管理室 学生相談室	健康診断の実施、健康管理室の運営、学生相談 室の運営、
留学生支援	国際交流センター 学習支援センター	外国人留学生に対する学習・生活支援、外国人 留学生の奨学金手続き、国際交流行事の企画・ 運営
留学支援	国際交流センター	海外留学奨励費
資格取得支援	学習支援センター	資格取得対策講座の企画運営、資格取得に関す る相談
課外活動支援	学習支援センター	課外活動（部・サークル、ボランティア）の支 援、学生プロジェクト支援制度

<奨学金>

奨学金名	種別	奨学金	問い合わせ先	備考
日本学生支援機構 第一種奨学金	貸与	月 2,3,4 万円（共通） 月 54,000 円（自宅）大学 月 5 万または6万4千円（自宅外） 大学 月 53,000 円（自宅）短大 月 60,000 円（自宅外）短大 月 50,000 円または88,000 円大学院	学務課	無利子
日本学生支援機構 第二種奨学金	貸与	月 2～12 万円から選択（1 万円単位） （大学・短大） 月 5・8・10・13・15 万円から選択 （大学院）	学務課	有利子
あしなが育英会	貸与	月 70,000 円（一般）	学務課	無利子

		月 80,000 円（特別）		
交通遺児育英会	貸与	月 4・5・6 万円から選択	学務課	無利子
自治体（県・市町村）奨学金	貸与	各自治体が定めた額	学務課	無利子
みちのく・ふるさと貢献基金	貸与	月 30,000 円（看護学生）	学務課	
病院奨学金（看護学部）	貸与	各病院が定めた額	キャリア支援センター	
子弟減免制度	免除	入学金の半額	入試広報センター	
特待生	免除	授業料の全額、半額または3割	入試広報センター	試験有
スポーツ特待生	免除	授業料の全額、半額または3割	学習支援センター	審査有
設置校入学に伴う入学金減免制度	免除	入学金免除	入試広報センター	
教育ローン利子補給制度	給付	本学園が提携している金融機関等の利息を奨学金として支給	総務課	

※留学生のみ

奨学金名	種別	奨学金	条件	備考
国費外国人留学生	給付	月 126,000 円+授業料+帰国旅費	大学院のみ	
学習奨励費	給付	月 48,000 円		
(公財)ロータリー米山記念奨学金	給付	月 100,000 円	学部3・4年生	
(公財)平和中島財団奨学金	給付	月 100,000 円		
(公財)佐川留学生奨学金	給付	月 100,000 円	東南アジア出身	
(公財)佐藤陽国際奨学財団奨学金	給付	月 120,000 円	東南アジア出身	
(公財)朝鮮奨学金奨学金	給付	月 25,000 円	韓国・朝鮮籍	
(一財)共立国際交流奨学財団奨学金	給付	月 100,000 円 又は 月 60,000 円	アジア諸国	
子弟減免制度	免除	入学金の半額	卒業生または在学生の子弟のみ	
私費外国人留学生学費減免制度	免除	授業料・教育充実費の半額	※経済的に支援の必要のある私費留学生対象	

公益財団法人 似鳥国際奨学財団奨学金	給付	月 80,000 円	3・4 年生	
-----------------------	----	------------	--------	--

教育ローン

Web 学費サポートプラン	オリエントコーポレーション (オリコ)	オリエントコーポレーション (オリコ) 学費サポートデスク
悠裕プラン	ジャックス	ジャックスコンシューマーデスク
セディナ学費ローン	SMBC ファイナンスサービス	SMBC ファイナンスサービスカ スタマーセンター
教育ローン	青森銀行	青森銀行 本・支店
教育ローン	みちのく銀行	みちのく銀行 本・支店
教育ローン	青い森信用金庫	青い森信用金庫 本・支店
国の教育ローン	日本政策金融公庫	日本政策金融公庫各支店および ホームページ

(3) 管理運営の概要

[ガバナンス]

平成17年度に私立学校法が改正・施行されたが、学校法人が社会環境の変化に主観的・機動的に対応するため、ガバナンスの充実が必要である。学校法人の使命は、「中長期計画に基づき安定した財務基盤を確立し、教育・研究活動を行い永続維持を果たしていく」ことである。そのためにガバナンスの果たすべきことは、将来リスクを明確に意識し、マネジメント体制を充実させ、学校法人の活動サイクルを円滑なものにすることである。また、中長期計画に基づいた適切な予算執行と、目的達成のための効率性を把握することが、予算制度の観点からも求められる。

さらに、コンプライアンスマネジメントやリスクマネジメントなども要請される。

これまでも、理事会において基本方針を策定し、教学組織と理事会との連携および機能分担を適切に行ったことで、改革を成功に導いてきた。今後もガバナンスの充実、教学組織と連携を図り、積極的に情報開示し、社会からの評価をフィードバックして、持続的な成長と発展を目指していく。

[自己点検・評価]

平成20年度及び平成27年度に青森中央短期大学が、財団法人短期大学基準協会による認証評価を受審し適格の評価を受けた。青森中央学院大学は平成21年度及び平成28年度に財団法人日本高等教育評価機構による認証評価を受審し「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしている」と認定されました。専門学校・附属幼稚園も自己点検評価を実施している。

今後も、多様化する様々な課題に直面する中、教育の質をどのように保証していくかが課題となっており、学校法人が自らの将来と社会の信頼を確かなものにするためにも「内部質保証システム」の構築は、必要不可欠な要件と言える。設置基準・設置認可審査・認証評価など「外的質保証システム」への対応を目的とするのではなく、自らの責任において、諸活動について自己点検・評価を行い、その結果をもとに改革・改善に努め、そのことを通じて教育の質を保証していくことが必要となる。公益法人としての使命を果たしているかという視点が基盤となり、自己点検・評価活動の機能を高めることは、社会に対する説明責任を果たすことにも繋がってくる。

[情報公開]

「自己点検評価報告書」を関係機関に配布しているほか、学園および、各施設校のホームページで財務情報・教育情報等を随時公開している。

また、青森中央短期大学研究紀要、特別研究集録、看護研究集録、青森中央学院大学研究紀要、青森中央学院大学大学院研究紀要、青森中央学院大学地域マネジメント研究所年報を発行し、研究成果を公表している。

[施設設備整備]

教育研究目的を達成するため、施設設備の安全性を確認しながら、アメニティに配慮した教育環境の整備に努めている。

(4) 特徴ある取り組みの概要

①教育力向上の取り組みの概要

(1) 授業の改善に向けた取り組み（FD活動）

学生の授業評価アンケート自由記述欄へ、教員がコメントし公開する取り組みを継続し、問題解決志向型ワークショップ、外部講師による研修会など、活発な活動を行っており、教員の能力向上に努めた。

(2) 入学前・後サポートプログラムの実施

リメディアル教育の充実をはかり、AO、推薦入学者を対象とした入学前サポートプログラムの内容を、それぞれの学科や学生の志向にあわせて充実させた。また、入学後も未履修科目や特定の科目の学力不足の学生に対して、リメディアル講座（アカデミックライティング、数学、化学、生物）を実施した。

(3) 教養教育の充実

教養科目の一部について、青森中央学院大学と青森中央短期大学で同時開講し幅広い科目群の中から選択ができるようにしている。また、全設置校の学生が在学中に1度は「青森ねぶた祭り」に参加し、郷土の文化について学ぶ機会を作っており、他にも芸術鑑賞、テーブルマナー、消費者教育、薬物についての講話など様々な取り組みを行った。

(4) ゼミ・特別研究

多数の学生に対して、教員が講義するだけではなく、少人数の学生と教員とが一緒に考え、話し合う参加意識の高まる授業形態を実施し、ゼミ単位で学生全員が個別にテーマを決めて卒業論文を作成し、全員が発表する機会を設け、一連の研究活動を体験しプレゼンテーション能力の向上を図った。

(5) カリキュラムマップの作成

平成26年度より、カリキュラムの変更に伴い、学位授与方針の各項目と科目群との主たる対応関係を示したカリキュラムマップを作成している。

②国際交流の概要

(1) 吉林外国語大学（中国）と交流に関する協定の締結をした。

(2) 学術交流協定を締結しているタイ王国の泰日工業大学からサマーキャンプ生を受け入れ、日本語教育及び国際交流活動のプログラムを実施した。(5/15～6/10)

(3) 学術交流を締結しているタイ王国のカセサート大学から日本語・日本文化研修留学生（日研生）1名を受け入れ、日本語教育及び国際交流活動のプログラムを実施した。

(4) 学生交流・学術交流協定を締結している台湾の南台科技大学から交換留学生1名を受け入れ、日本語教育及び国際交流活動のプログラムを実施した。

(5) 海外同窓会（マレーシア・ベトナム・タイ）を青森サポーターの会としても位置付け、卒業生が青森のサポーターとして青森と母国を結ぶ役割を担う活動に取り組んだ。

(6) 青森県からの委託を受け、「健康果実・青森りんごファンづくり強化事業」を行った。

(7) 外国人留学生の受け入れについては、青森中央学院大学を中心に、中国、韓国、台湾、ベトナム、タイ、マレーシア等から優秀な留学生を受け入れており、様々な国

際交流活動に取り組んだ。

③社会貢献・連携活動の概要

(1) 公開講座、公開授業、出前講座、セミナー等の開催

各施設校で、学校・学部・学科の特色を活かした、公開講座等を定期的に開催しており、多くの参加者があり好評であった。

青森中央学院大学

公開講座「留学生による語学講座」、「市町村リレートーク」、「教育フォーラム」、「まちなかキャンパス講座」（青森商工会議所共催）他

公開授業「現代社会の諸相」、「暮らしと地域」、「あおりツーリズム創発塾 in 青森中央学院大学」 他

青森中央短期大学

公開講座「Sessions on the arts」、「親子クッキング」、「あおり食育サポーター研修会」、「高校生向け公開講座」

青森中央経理専門学校

公開講座「パワーポイントで作るお年玉袋作成」

公開講座「こんな時だから考えたい！“ワークスタイル” & “マナーリテラシー”
～この不確実な世界をサバイブしていくために～」

出前講座「10代から学ぶマナー講座」

青森中央文化専門学校

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(2) 学生発表会

学園祭などの学内における発表会だけではなく、青森市駅前アウガにおいての「青森中央短期大学幼児保育学科卒業記念講演」、「青森中央文化専門学校 Bunka Fashion Live」において、青森中央経理専門学校の学生が運営に参加など、教育内容を地域に公表した。また、青森市産官学連携プラットフォーム主催「合同学修研究成果発表会」、青森市学生ビジネスアイデアコンテスト、あおりフィールドスタディ報告会、函館市・弘前市の大学コンソーシアム等で、学生の地域活動の成果等を発表した。

(3) 出版

定期刊行物として、青森中央学院大学研究紀要、青森中央学院大学地域マネジメント研究所年報、青森中央短期大学研究紀要、青森中央短期大学特別研究集録を出版した。

(4) グリーン・ツーリズム支援

本学に在籍する外国人留学生や、海外協定校等のネットワークを活かした、海外から青森県内へのグリーン・ツーリズム受け入れ事業を青森県内の各機関と連携し実施した。これまでの取組をまとめた「グリーン・ツーリズム（インバウンド）の展開と課題」を出版した。

(5) 高大連携

連携協定を締結している青森中央高等学校、青森西高等学校、青森商業高校を中心とした県内高校生へ、学生参加型プログラム、大学見学等を実施し、高等学校内での出前授業、進学説明会等も積極的に実施した。

(6) 連携協定

青森市、十和田市、むつ市、東北町、(株)青森銀行、(株)みちのく銀行、青森県中小企業家同友会、横内町内会、青森県消費者協会、青森市内高等教育機関（4 大学、2 短期大学）、青森県防災士会などと、地域活性化、海外ビジネス支援など連携協力に関する協定を締結している。

3. 財務の概要

(1) 財産目録

(単位：円)

科 目	令和2年度	令和元年度
一. 資産		
(一) 基本財産		
1. 土地	(250,483.93 m ²) 1,945,339,480	(250,483.93 m ²) 1,945,339,480
2. 建物	(44,672.04 m ²) 4,181,781,411	(44,672.04 m ²) 4,344,671,916
3. 構築物	199,687,945	219,188,955
4. 教具・校具・備品	(23,840 点) 167,712,012	(23,817 点) 157,915,472
5. 図書	(101,358 冊) 484,635,107	(98,981 冊) 472,706,984
6. その他	3,939,058,668	3,742,681,077
(二) 運用財産		
1. 現金預金	1,699,142,027	1,598,391,635
2. その他	131,606,417	116,155,002
資産総額	12,748,963,067	12,597,050,521
二. 負債		
(一) 固定負債		
1. 退職給与引当金	281,463,307	248,699,503
(二) 流動負債		
1. 未払金	137,667,795	70,557,696
2. 前受金	429,227,207	434,456,738
3. 預り金	54,398,610	56,923,974
負債総額	902,756,919	810,637,911
三. 正味財産 (資産総額－負債総額)	11,846,206,148	11,786,412,610

※ 基本財産：学校法人の設置する私立学校に必要な施設及び設備又はこれらに要する資金

※ 運用財産：学校法人の設置する私立学校の経営に必要な財産

※ 財産目録は、学校法人会計基準においては作成を義務付けられていないが、私立学校法において、作成義務があります。また、毎年資産総額の変更登記をする際の添付書類となります。

※ 貸借対照表の資産や負債について、具体的内容を表したものです。学校法人が所有する土地や建物の面積、図書の冊数などを知ることができます。

(2) 貸借対照表

(単位：円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	10,918,214,623	10,882,503,884	35,710,739
有形固定資産	6,987,490,965	7,156,962,784	△169,471,819
土地	1,945,339,480	1,945,339,480	0
建物	4,181,781,411	4,344,671,916	△162,890,505
その他の有形固定資産	860,370,074	866,951,388	△6,581,314
特定資産	3,876,651,042	3,673,086,584	203,564,458
その他の固定資産	54,072,616	52,454,516	1,618,100
流動資産	1,830,748,444	1,714,546,637	116,201,807
現金預金	1,699,142,027	1,598,391,635	100,750,392
未収入金	129,313,847	116,046,333	13,267,514
短期貸付金	540,000	0	540,000
前払金	1,752,570	108,669	1,643,901
資産の部合計	12,748,963,067	12,597,050,521	151,912,546
固定負債	281,463,307	248,699,503	32,763,804
退職給与引当金	281,463,307	248,699,503	32,763,804
流動負債	621,293,612	561,938,408	59,355,204
未払金	137,667,795	70,557,696	67,110,099
前受金	429,227,207	434,456,738	△5,229,531
預り金	54,398,610	56,923,974	△2,525,364
負債の部合計	902,756,919	810,637,911	92,119,008
基本金の部合計	13,131,986,977	13,007,189,441	124,797,536
第1号基本金	12,457,986,977	12,433,189,441	24,797,536
第2号基本金	500,000,000	400,000,000	100,000,000
第4号基本金	174,000,000	174,000,000	0
繰越収支差額	△1,285,780,829	△1,220,776,831	△65,003,998
純資産の部合計	11,846,206,148	11,786,412,610	59,793,538
負債及び純資産の部合計	12,748,963,067	12,597,050,521	151,912,546

※ 貸借対照表とは、会計年末度における学校法人の資産、負債の内容、純資産（資産－負債）の額を明らかにします。また、基本金（維持すべき金額）に対する純資産の過不足状態を繰越収支差額として表します。

※ 固定資産は、有形固定資産が土地 1,945 百万円、建物 4,181 百万円を含む 6,987 百万円、特定資産は 3,876 百万円、その他の固定資産は 54 百万円です。流動資産の総額は 1,830 百万円で、そのうち 1,699 百万円が現金預金となっています。

負債は、固定負債と流動負債に分かれますが、固定負債は退職給与引当金 281 百万円、流動負債のうち、前受金 429 百万円は、令和 3 年度入学生の授業料や入学金等で令和 2 年度に入金されたものです。

(3) 資金収支計算書

(単位：円)

科 目		令和2年度	令和元年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,673,337,657	1,748,527,590
	手数料収入	19,609,219	20,255,965
	寄付金収入	23,890,541	25,574,353
	補助金収入	842,932,859	732,533,264
	国庫補助金収入	442,908,700	354,592,844
	地方公共団体補助金収入	28,179,399	18,640,140
	施設型給付費収入	371,844,760	359,300,280
	資産売却収入	100,000	0
	付随事業・収益事業収入	147,788,007	161,329,667
	受取利息・配当金収入	5,609,679	6,046,936
	雑収入	64,750,359	47,870,074
	前受金収入	429,227,207	434,456,738
	その他の収入	62,321,351	55,197,148
	資金収入調整勘定	△516,203,134	△532,243,321
	前年度繰越支払資金	1,598,391,635	1,703,279,500
	収入の部合計	4,351,755,380	4,402,827,914
支出の部	人件費支出	1,462,484,634	1,442,819,624
	教育研究経費支出	790,113,057	711,438,080
	管理経費支出	132,436,174	228,345,547
	施設関係支出	51,636,651	6,696,000
	設備関係支出	74,654,833	84,502,552
	資産運用支出	203,564,458	303,952,492
	その他の支出	75,500,010	97,298,860
	資金支出調整勘定	△137,776,464	△70,616,876
	翌年度繰越支払資金	1,699,142,027	1,598,391,635
	支出の部合計	4,351,755,380	4,402,827,914

※ 資金収支計算書とは、当該会計年度の教育研究活動やこれに付随する活動に対応する、すべての収入と支出の内容を明らかにし、また現金預金の1年間（4月1日～3月31日）の動きを表すものです。

※ 収入の部は、当該年度の負債とならない収入のほかに、前受金、特定資産等からの繰入収入を含んだ収入のことです。支出の部は、当該年度の教育研究活動等に対する支出のほかに、施設設備関係支出、特定資産への積立などの資産運用支出を含んだ支出のことです。

(4) 事業活動収支計算書

(単位：円)

教育活動収支		科目	令和２年度	令和元年度
	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,673,337,657	1,748,527,590
		手数料	19,609,219	20,255,965
		寄付金	20,890,541	22,574,353
		経常費等補助金	832,589,859	731,183,264
		付随事業収入	147,788,007	161,329,667
		雑収入	64,996,979	47,870,074
		教育活動収入計	2,759,212,262	2,731,740,913
	事業活動支出の部	人件費	1,495,248,438	1,463,726,846
		教育研究経費	1,057,195,384	975,812,766
		管理経費	159,499,017	252,071,524
		徴収不能額等	6,528,531	7,562,173
		教育活動支出計	2,718,471,370	2,699,173,309
教育活動収支差額			40,740,892	32,567,604
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	5,609,679	6,046,936
		教育活動外収入計	5,609,679	6,046,936
教育活動外収支差額			5,609,679	6,046,936
経常収支差額			46,350,571	38,614,540
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	99,999	0
		その他の特別収入	13,343,000	4,350,000
		特別収入計	13,442,999	4,350,000
	事業活動支出の部	資産処分差額	32	17,238,429
		その他の特別支出	0	0
		特別支出計	32	17,238,429
特別収支差額			13,442,967	△12,888,429
基本金組入前当年度収支差額			59,793,538	25,726,111
基本金組入額合計			△124,797,536	△100,000,000
当年度収支差額			△65,003,998	△74,273,889
前年度繰越収支差額			△1,220,776,831	△1,176,069,870
基本金取崩額			0	29,566,928
翌年度繰越収支差額			△1,285,780,829	△1,220,776,831

(参考)

事業活動収入計	2,778,264,940	2,742,137,849
事業活動支出計	2,718,471,402	2,716,411,738

※ 事業活動収支計算書とは、当該会計年度における収支状況を表す重要な計算書類です。事業活動収入と事業活動支出の内容及び均衡の状態を明らかにし、学校法人の経営状況が健全であるか否かを示すもので、企業会計の損益計算書に相当するものです。

※（参考）の事業活動収入とは、借入金のように返済を求められることのない、学校法人に帰属する収入です。

基本金は、学校教育を続け、教育研究の質を維持し向上を図るための環境整備を図る役割を担っている。そのため、事業活動収入からその年度に消費する人件費等の経費に優先して、取得した資産の相当額である基本金を控除する。

（５）令和２年度決算の概要

法人全体としては、教育研究活動と経営の将来像として、具体的な実現に向けて、平成 27 年度から「中期経営計画」と称し、中期経営計画基本方針を基に 6 ヶ年計画で重点項目を 9 つの戦略に分類し、各課題等について実効ある改革を推進しています。

大学では中期計画を 2018 年度～2022 年度で 13 の実施事業に分類し、教育改革・教学マネジメントの取り組み及び学生支援等の充実を図っています。

短期大学は、中期計画「こぶしの花プラン」と称し、学生を確実に成長させ自立に導く教育、地域に頼りにされる短期大学を目指し、2016 年度～2020 年度で 6 つのスローガンのもと 31 の事業を展開してきました。

令和 2 年度は設備の面では演習室のパソコン入替更新等を行い教育環境等の整備を図り、学生サービス及び利便性の向上を図るため、自動証明書発行機を導入しました。

連携協定に基づく行政・他教育機関・経済団体・他大学との具体的な連携活動を推進・実施することで、地域貢献はもとより地域を志向した教育・研究活動および事業の発展的展開を図りました。こうした教育環境整備及び教育の質保証向上のためにも、計画的な第 2 号基本金への組入や安定した学生数確保及び外部資金獲得等による収入増、適切な予算配分、無駄のない予算執行等により支出減を図ってきました。

私学事業団の経営判断指標判定表（定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分）においての令和 2 年度判定は、「A3」正常状態であり、平成 30 年度「A3」、令和元年度「A3」と 3 年連続「A3 正常状態」を保っています。

事業活動収支は、「教育活動収支」、「教育活動外収支」、「特別収支」の事業活動全体において、事業活動収入計は 2,778 百万円、事業活動支出は 2,718 百万円で、基本金組入前当年度収支差額は 59 百万円の収入超過となりました。

事業活動別では、教育活動収支においては、授業料・入学金等の学生生徒等納付金 1,673 百万円、国・地方公共団体・認定こども園に対応する施設型給付費の経常費補助金 832 百万円、寄宿舎事業・受託事業等の付随事業収入 147 百万円などの教育活動収入計 2,778 百万円に対し、人件費 1,495 百万円、教育研究経費 1,057 百万円、管理経費 159 百万円などの教育活動支出計 2,718 百万円となり、教育活動収支差額は 60 百万円の収入超過となりました。

令和 2 年 4 月より、高等教育の修学支援新制度がはじまり、入学金及び授業料免除・減免相当分が国からの補助金として計上され、前年比 101 百万円の増加となりました。

人件費は、退職金の支給及び退職給与引当金への繰入などにより、前年比 31 百万円の増加、教育研究経費は前述の新制度の免除・減免相当額が奨学費として計上され、前年比 81 百万円の増加、管理経費は昨年度に実施した大規模な改修工事を実施していないため、前年比 92 百万円の減少となりました。

教育活動外収支では、受取利息・配当金 5 百万円となり、前年比 1 百万円の減少となりました。

特別収支においては、大学及び幼稚園の教育環境整備に伴う施設設備補助金や後援会等からの施設整備寄付金などの特別収入計 13 百万円となり、前年比 9 百万円の増加となりました。

臨時的な収支である、特別収支を除く、経常収支差額が 46 百万円となり昨年度比 8 百万円の増加となり、当年度も収入超過となり経常的な事業活動が安定的であると言えます。

今後も財政基盤を強化し安定させていくとともに、より良い教育環境及び教育の質保障の向上、地域貢献のため、努力を継続してまいります。